

武者と軍人の五月人形

飯能市立博物館 学芸職員 波田 尚大

今月ご紹介するのは武者と軍人の五月人形です(画像 1)。五月五日は端午節供であり、子どもの成長を祈願するため、江戸時代の後半に様々な事績のある武者などの人形を飾ることが流行します。



画像 1 武者と軍人の五月人形

「節句」ではなく「節供」と表記していますが、その方が本来の意味に近い表記です。日本ではその原型が中国から伝わり、奈良・平安時代には宮中でも行われ、形を変えながら現在まで続いている歴史ある年中行事の一つです。かつては季節の節目の日の際に供物を捧げていたのですが、その日のことを節日の供物、つまり「節供」と呼ぶようになりました。江戸時代のはじめ頃までは「節供」と表記されていましたが、その後「節句」表記が増えるようになり、現在は新聞をはじめ、「節句」が一般的になっています。

現在私たちが使用している、太陽暦（グレゴリオ暦）は、明治 6(1873)年 1 月 1 日から使用しています。旧暦では、令和 6(2024)年 6 月 10 日が端午節供で、かつては、梅雨の時期に行われていました。はじめとした梅雨の時期は病気にかかりやすく、様々な災いが発生すると考えられていました。端午節供に「菖蒲湯」に入るという習俗は、鎌倉時代中期には行われていて「菖蒲」の持つ抗菌・解毒などの薬効や青々としたその香りに邪気をはらう力があると信じられていたために行われていました。

五月人形に話を戻します。今回ご紹介する武者・軍人の顔をよく観察すると、共に立派なまゆげやひげがあることがわかります(画像 2,3)。武者も軍人も、力の



画像 2 武者の顔



画像 3 軍人の顔

ある人物に見せるため、このような作りになっているものと考えられます。日中戦争開戦頃に、武者は飯能の柳原、軍人は日高の新堀の親戚から初節供の祝いとして贈られたものと伝わっています。武者だけでなく軍人の人形も飾られていることから、戦時体制にあった当時の日本の世相をうかがい知ることができる資料と言えます。

これから梅雨の時期に入ります。旧暦の端午節供は、菖蒲湯に入って疲れを癒してはいかがでしょうか。

【参考文献】

小川 直之『日本の歳時伝承』角川ソフィア文庫 平成 30(2018)年 4 月 25 日

田中 宣一・宮田 登編『三省堂年中行事事典』三省堂 平成 11(1999)年 8 月 1 日